

# 英語科学習指導案

日時 平成30年10月16日(火)5時間目

学校名

展開学級

授業者

## 1 単元名 New Crown 1 Lesson5 Our New Friend

## 2 単元について

生徒はこれまで英語と日本語の違いに興味をもちながら、代名詞の主格を用いて話したり英作文をしたりして学習を進めてきた。人称代名詞が格によって大きく形を変えるという文法は日本語には存在しないが、ほとんどの生徒が、授業の中で用意された主格を用いた英文については十分な理解を示している。既習の所有格についても、日本語の日常会話でも「マイ～」などと使用したりする機会が多いためか、スムーズに学習することができた。今回扱う目的格は、そのような代名詞の中で最も扱いづらい文法事項と言える。ここでは主に一般動詞のあとに続く目的語として使用されているが、他に前置詞のあとに続くことも多く、また英語と日本語との間の意味のギャップ（必ずしも「～を」「～に」という訳が合うわけではない。例：I like him.←「私は彼が好きだ」）があったりと、英語を学び始めたばかりの生徒達には難易度が高い。

そこで今回は一般動詞のあとに続く形に限定して学ぶことにより混乱を避け、更に「好きな有名人」や「生徒たち自身の日常生活」など、生徒が興味をひかれる話題を取り上げる。その会話場面で同じ固有名詞が目的格として繰り返される場面を設定することで、代名詞の目的格の便利さ、目的格を用いることでやりとりがスムーズになることなどを実感させ、意欲的に使わせていきたい。

他に Who is~?/him/her/When/Where do you~?といった文法事項を扱う。GET とまとめのコーナーを通して、聞くこと、話すこと（やりとり）、読むこと、書くことをバランスよく扱う計画である。

また、本単元ではインドからの転入生ラージがメイリンやエマと交流を深めながら学校に慣れていく様子が描かれている。彼らの対話は単なる情報交換だけでなく、「I see."や"Right.", "Nice."等軽い相づちなども含まれている。そうした相づちなど+αの表現は、コミュニケーションを円滑にする上で重要な役割を果たす。そこでコミュニケーション活動を行う際には対話の最後に相づちなどのひと言を付け加えさせ、より自然な対話に慣れさせるとともに、コミュニケーション能力の向上を目指していきたい。

## 3 本校の研究との関わり

本校英語科では、ペアやグループで行う学習場면을工夫し、生徒の参加意欲を高めること、デジタル教科書を効果的に使用すること、Classroom English を段階的に取り入れ、実際のコミュニケーションの中で自然に使える英語を増やすこと、場面設定を工夫することで、より深い学びを構築すること、英作文をさせ十分に事前指導を行ってパフォーマンステストの評価をする場面をもち、達成感を味わわせること、の5点に取り組んでいる。本単元の学習においても、教師の英語での発話をできるだけ増やしたり、ペアやグループでの学習場면을工夫していきたい。また、デジタル教科書を使用することで能率的に前時の復習を行い、コミュニケーション活動に時間を充てられるようにしたい。

また、本校の研究主題は『生きる力を育むための教育実践のあり方～基礎・基本の定着を図り、意欲的な学びを促す教育活動の工夫～』で、サブテーマは「教科の枠を超えて活用できる発表スキルの習得」である。英語の授業を通して、生徒にコミュニケーションスキルやコミュニケーションに対する望ましい姿勢を身につけて欲しいと考えているので、「声のものさし」「話し方、聞き方名人」といった発表スキルを身につけるための手段を本単元の授業でも活用していきたい。

#### 4 単元の目標

- (1) 興味をもつ人物やものについて、疑問詞や代名詞の目的格を用いた会話に積極的に取り組んでいる。  
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 人や場所・時間について Who/Where/ When、him/ her を用いて話すことができる。  
【外国語表現の能力】
- (3) Who/Where/ When、him/ her を用いた文を聞いて、人や場所・時間について理解できる。  
【外国語理解の能力】
- (4) 代名詞の目的格 him/her や疑問詞 who/where/when を用いた文の構造を理解する。  
【言語や文化に関する知識・理解】

#### 5 単元の評価規準

ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ. 外国語表現の能力	ウ. 外国語理解の能力	エ. 言語や文化に関する知識・理解
①興味をもつ人物や物についての会話を通して、疑問詞や代名詞目的格を用いた会話に積極的に取り組んでいる。	①ペアワークを通して、人や場所・時間について質問しあうことができる。	①ペアワークのなかで、人や場所・時間についての会話を聞いてその内容を理解することができる。	①疑問詞 <b>who</b> を用いた文の構造を理解している。 ②代名詞目的格を理解している。 ③疑問詞 <b>where/when</b> を用いた文の構造を理解している。

#### 6 生徒の実態

7 指導計画（6時間扱い）

時	学習のねらい	学習活動	評価	資料
1～2	Who is ~?の文とその応答文を理解する。Who is ~?を含む文を聞いて理解する。	絵や写真を見ながら、Who is ~?を用いた文を聞き、文の構造を理解する。 教科書の本文を読む。	エの① ウの① イの①	教科書 GET Part1
3	人称代名詞目的格を理解する。	絵や写真を見ながら、him/herを用いた文を聞き、文の構造を理解する。 教科書の本文を読む	エの②	教科書 GET Part2
4	人称代名詞目的格を使ってコミュニケーションを深める。	絵や写真を示しながら、人称代名詞を用いた会話をする。 目的格を用い絵や写真を示しながら、生徒それぞれが興味のある人や物について対話する。	アの①	生徒がそれぞれ用意した「好きな有名人(もの)」の写真
5～6	When/Where do you ~?の文を理解し、使う	絵や写真を見ながら、When/Where do you ~?を用いた文を聞き、文の構造を理解する。 教科書の本文を読む。	エの③ イの①	教科書 GET Part3

8 本時の指導

(1) 本時の題材 Lesson 5 Our New Friend GET Part2

(2) 本時の目標

人称代名詞の目的格を含む文を用いて、自分たちの「好きな有名人」について積極的にたずねたり、答えたりすることができる。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(3) 本時の展開過程時

過程	時配	学習内容と課題	形式	指導○ 評価◎ つまづき等への手立て●
Greeting Warm-up		・英語で挨拶をする。 ・既習事項を含んだ chants の発音練習をする。 ○既習事項を用いて意欲的に練習をしているか確かめながら進める。 “I like him, too.” “I like them, too.” “They all like us.”	一斉	
Review	5	・デジタル教科書で Words の発音練習をする。 ・デジタル教科書で本文の音読練習をする。	一斉	○声をしっかりと出すよう促す。
展開 1	10	・例となる写真を提示し、生徒に尋ねながら対話文を確認する。	一斉	○絵（写真）を見せながら生徒とやりとりをし、例を示す。 ●I know her.は特に答えが出や

	10	<p>T: Do you know this woman?"</p> <p>S: Yes, I know her. / No, I don't know her.</p> <p>T: She is (Ms Suzuki).</p> <p>She is a (Japanese teacher).</p> <p>She is (beautiful). I like her.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音練習をする。</li> <li>・例をほかにも挙げながら(him, them)練習する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の用意した絵や写真を参考にしてワークシートの対話文を完成させる。</li> <li>・隣のペアと対話する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何組か発表させ、よかったところを全体で共有する。</li> </ul>	個人 ペア 一斉	<p>すいように例文を少しずつ示す。</p> <p>○生徒が興味を持ちそうな人物を選ぶ。</p> <p>○同時に全員に見えるよう、大型テレビを用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●書けない生徒を支援する。</li> </ul> <p>○ワークシートから顔をあげて話すように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●困っているペアを支援する。</li> <li>●全体で学びを深める。</li> </ul> <p>◎目的格を用いて積極的に対話することができたか。【興味・関心・態度】</p>
展開 2	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話の終わり方に言及し、更に一言付け加えるとさらにコミュニケーションとして深まることに気付かせる。</li> <li>・付け加える一言を挙げさせる。 (例: Wow! Really? Me, too. I think so. I don't think so. Great. I know. )</li> <li>・最後に一言を付け加える形の対話を、列ごとに一人ずつ動きながら 4, 5 人と対話練習をする。</li> </ul>	一斉 ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体で学びを深める。</li> </ul> <p>○教師のあとについて発音練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●困っているペアを支援する。</li> </ul> <p>◎目的格を用いて積極的に対話することができたか。【興味・関心・態度】</p>
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表をきちんと聞くことができたか確認する。</li> <li>・全員が対話に取り組んだことを評価する。</li> </ul> <p>◇Assessment Sheet に本時の目標達成度の自己評価をする。</p>	一斉	<p>◎目的格を用いて積極的に対話することができたか。【興味・関心・態度】</p> <p>《Assessment Sheet》</p>

#### (4) 評価

人称代名詞の目的格を含む文を用いて、自分たちの「好きな有名人」について、積極的にたずねたり答えたりすることができる。

「A」の目指す姿 目的格の人称代名詞を用いて「好きな有名人」についてワークシートなどを見ずに、積極的かつ適切にたずねたり答えたりすることができる。

「B」の目指す姿 目的格の人称代名詞を用いて「好きな有名人」についてワークシートなどを見ながら、適切にたずねたり答えたりすることができる。

「C」の目指す姿 「好きな有名人」についてワークシートなどを見ながら適切にたずねるか、答えることができる。